

小学校検討会

感想

井門先生

「反省会に入ります。先に感想をいただいて、その後、反省会に入ります。」

ゲストティーチャー

「大変ご苦労さまでした。内容について私がどうこう言うような場面は、特になかったと思います。ただ、若干気になったところが田沢湖に水を入れ始めたのは1938年となっておりますけれども、入り始めた部分もあったかもしれませんが、実際には発電は1940年の1月20日に開始でした。そこで正式に水が通り始めました。その辺のところは、私もどうであったのか家に帰ってから勉強しておきたいという風に思います。あとは、本当にクニマス、あるいは田沢湖について取り上げて頂き、小学校5年生ですので、非常に子どもたちに田沢湖の問題、クニマスの問題、水の問題を伝えるのは非常に難しい場面があったと思います。私も話していて、大人と話しているのならば、言葉もそれなりの理解をして頂けるから適当に話せるが、子ども相手にはとても難しいものであるとしみじみとしました。本当に粗末な受け答えになってしまいましたが、皆さんの授業の実践に役立つことができましたのならば、今後ともどうかクニマス、田沢湖について関心を持つように広めていて頂きたい。本当に田沢湖を昔の状態に戻したいというのは私の夢であり、田沢湖が返ることによって世界でも一度失った自然が復原された例は無いそうですから、そういう意味でももし復原されたのならば、世界的な一つの大きな貴重な話題として財宝として日本が誇れるようになると思います。県立大学の先生、皆さんとは多少前にも(3分37秒頃)した部分がありますが、今回初めて秋田大学の皆さんと(3分46秒頃)本当に感謝しております。今後ともよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。」

全体

「どうもありがとうございました。」(拍手)

反省会

司会

「反省会を始めさせていただきます。よろしくお願ひします。まず始めに授業者から反省をお願ひします。それでは、お願ひします。」

授業者1

「今日はありがとうございました。自分は導入部分をしましたが、導入のネタについてはみんなでいろいろ考えたので、子どもの興味関心を引きつけることはできそうだと思うの

ですが、子どもたちの諸活動を(4分35秒頃)もっと食いついて授業を最後まで子どもたちが興味関心を持ちながら進められたのではないかと思いました。あと、子ども(4分55秒頃)全体的に前側の子どもが中心になっていたのも、そういうのは気を配ってすべきであったと思いました。あと、(5分9秒頃)使ったのですが、前回模擬授業をした際に(5分17秒頃)が多いということで削ったつもりであったのですが、実際子どもたちの取り組んでいる様子を見てみると、読むのに時間がかかっていることや難しい言葉などがあったので、もっと吟味してやるべきであったと思いました。2時間終わって、もう2枚くらいしっかり準備をしていれば、スムーズに授業できたかなと思っています。以上です。」

授業者2

「今日はありがとうございました。事前に授業準備は入念にしてきたつもりでしたが、やっぱり実際の子どもたちに漫画を配ると読み取る時間がかかってしまうことなどそういったところまでは予想できないでいました。今回、時間がかかるなと言う印象があったので、もっと事前に準備をしっかりしておけば良かったかなと思いました。年表の部分をやったのですが、漫画を使ってやったのですが、子どもたちをもうちょっと授業に注目させるような工夫がもう少しできれば良かったと思います。子どもから意見や発言を引き出せるときに引き出して、引きつけていければよかったかなと思います。以上です。」

授業者3

「今日はありがとうございました。導入から展開の途中までやったのですが、黒板のワークシートの位置も年表と言うことで一応やっていたので、もうちょっと子どもたちに年表ということ(7分13秒頃)手元に漫画もあるので、もう少し黒板見てワークシートを見てすぐ分かるように、年表を意識させた(7分32秒頃)出来れば良かったかなと思いました。漫画を読み取る(7分39秒頃)子どもたちからそういう風に意見が出るようにできれば良かったかなと思います。以上です。」

授業者4

「二時間目の最初の導入部分をしたのですが、個人的な反省としては、話の切り替えがうまくできなかったことと地図で秋田と山梨の距離感について説明すること(8分15秒頃)忘れてしまったことです。実際に授業をしての反省としては、どうしてクニマスが秋田に復活させないといけないのかという問題意識(8分30秒頃)最後にクニマスが秋田で愛され続けて行く為にはという発問があったのですが、話し合っている時に子どもの声を聞いていたら大切にされていない訳ではないよねと言う言葉が聞こえてきて、その発問の仕方を以前にも何度か話し合っていたのですが、もう少し変えた方が良かったかと思いました。以上です。」

授業者 5

「本日はお忙しい中集まって頂きまして、誠にありがとうございました。個人的に授業の全体としての反省もいくつかあると思うのですが、基本的にチームプレーであるからこそ自分のところで時間配分が狂ってしまったことが、皆さんにもですが、非常に他の 5 人に申し訳なかったなと思い、弘平の場所でやりたいことができないで終わってしまったことや矢口さんの説明、天皇のところであることなど他にもやることが沢山あったのですが、僕のところで潰れてしまったので、本当に申し訳なかったです。そこを質問形式にしたのは、模擬授業ときにも言ったように(9分 56秒頃)結構いろいろなことを授業にも関係ないようなことを(10分 5秒頃)聞かせたので、答えて貰うことを焦点か使用と言うことで質問形式にしたのですが、結局、質問内容と違うこともちょっとおっしゃっていましたが、どういった形が正解であったのかなと思いました。実際(10分 35秒頃)思いなどは伝わったのではないかと思います。ここは自分で打ち合わせとかも(10分 40秒頃)失敗したというのも自分のせいだと思うので申し訳ないです。あと、全体としては、一時間目から退屈そうな児童も見られたので、そもそもクニマスを何で学習するのかというその部分はどこかでもっと出していければ違っていたのかと思いました。地図帳の確認する時間で、見つけられていない(11分 12秒頃)あそこは急に追加した部分でしたので、そういう部分でも(11分 20秒頃)以上です。」

授業者 6

「今日は授業を見て頂きありがとうございました。自分は二時間目のまとめの部分をやったのですが、時間が押していたことと自分が緊張していた為からか少々早口であったのかなと後から思いました。先ほどありましたように天皇とクニマスとの繋がり、矢口忠男とクニマスとの繋がりについて最後言うつもりだったのですが、言えなかったのがかなり心残りです。あと、全体としてもっとこうすれば良かったと思うのは、一時間目にもっと子どもに話し合う活動を入れたりすれば、子どもはもっと一時間目から退屈することやただ先生の話を聞くだけよりは良かったのかなと思います。以上です。」

外池先生

「授業お疲れ様でした。一時間目ですが、授業者の皆さんたちから感想があったように、子どもたちの間で何故クニマスを学ぶのかというのが、置き去り感があって、それがずっとどこかに引っかかりをもって二時間目に行ってしまった感じがある。(0分 44秒頃)だと、難しいんですよね。何でこの問題をやらなくてはいけないのかと、モチベーションをつけたりするのが難しい問題だし、もう少し大局的に見ると社会科で切実性論争って、切実であるのか、切実になるのかとかという問題で、深い問題であったのですが、その学習課題をどうして生徒たちが学ばないといけないのかというのを構成してあげる、醸し出すとか分からないですけど、その課題がやっぱり大きかったかなと思います。一つの感じたのは

最後の到着点でこの間の模擬授業の時にも言いましたが、例えばそれが命を守るという弘平くんのところで言ったことが、みんなが最後に言いたかったことの大きな一つだったとするのならば、一時間目、二時間目のある程度つうてんする形で、軸でずっとそれがどこかである形で、伝わる形の構成を作らないと多分何でこれをやっているのだろう、やらなくちゃいけないのだろうというのが、最後まで行ってしまわないだろうかと思えます。それを作る構成の課題を今回授業で一つ投げかけたのではないだろうかと思えます。

二つ目は、大きい話も小さい話もまとめて言ってしまうと、大森さんのところで漫画から気付いたことで例えば 30 センチの大きさがあることや例えば 20 メートルから 160 メートルのところで住んでいるというように抽象概念が数値で出てくるのですが、あれはもっと具体的な何かに置き換えてやるともっとクニマスがリアルに子どもたちに迫って行って、それも一つの彼らにとってクニマスがものになっていく手続きであったのかもしてないなと思った。30 センチっていてもそれってこれくらいだよねとか、20 メートルから 160 メートルの間に住むって言ったら相当深いじゃないですか。例えば今、我々がいる地点だって 20 メートルあるかないかくらいの高さのはずで、こんな深いところから住むってことでしょ。そういうイメージを、クニマスっていうもののイメージをもっと深く具体的につけてあげると良かったと言う感じがしましたね。三つ目が、これも難しいと思ったのですが、漫画を三つ使って、それで読み取らせて、ワークシートに記述させるというのはどうかというのかで、邪魔になっていて、授業全体のテンポをものすごく悪くしているんですね。むしろ漫画だけで、読み取らせて小学生なのでバンバン意見を活気づけさせてあげて、どんどん次へ進んでいった方がむしろ良かったという感じがしました。皆さんはきちんとした先生になろうとしているので、一回ちゃんと聞いてとか、こっち向いてとか、ストップを結構かけながら進んでいたじゃないですか、悪いとも言えないのですが、どうしてもやりすぎるとテンポが悪くなってしまいうんですよ。どんどんどん授業のトーンが下に落ちて行っちゃって、悪くなっていっちゃってというのが影響したかなと思いました。メリハリが難しいとは思いますが、ワークシートの使い方も含めて、授業のテンポ、間っていうのが少し悪かったかなと言う感じがしました。四つ目にやっぱり小学生なりに、絶滅したって言うのが中学校でもありましたが、絶滅した経緯をちゃんともっと分かり易く示してあげないと何だか唐突感がある。戦争の次にすぐ電力って話が出てきたり、電力の話が出てきたと思ったらすぐに玉川って話が出てきて、結局子どもたちが分かっているのか、結び付きや因果関係が、絶滅したのはまずどうしてか、それは環境が変わったから、導水だった訳、人の手によって要するに壊されてしまった訳で、なぜ導水が行われたのかそれは国策だから、何でそんな国策が行われたのか、それはまさに時代的な背景から、因果関係が、すごいクニマスが絶滅したのがハッキリしているじゃないですか。どうしてアレが絶滅したのかという理由が結構明確で、人の手によって歴史によって壊された。それが小学生にどこまで伝わったのか。年表と読み取りだと、ちょっと分かりづらかったのではないかと思います。小学生なりにそれはきっちり抑えてあげたら良かったのではないかな。

二時間目が、雅翔くんがやっぱり言っていたようにあそこで長くなってしまったのは項目が五つだったので、三つくらいにした方が良かったのではないか。あと、子どもが置き去りにしているというのはそこに子どもを参加させるためのシチュエーションを作れなかったのか、先生と(5分43秒頃)あとは、内容が天皇や釣り吉三平というのと間に考える活動があったとすると二時間目の内容は固かった感じがしました。意見が出たのは、流石附属小の子どもたちという感じでした。最後に一つ小学校、中学校を含めて考えて欲しかったのは、この間改めて授業を見て思い出したという感じだったのですが、10年程前、井門先生や学生と授業を作った時と今回の授業がいくつか違うところあるのですが、大きく違う一つにクニマスという魚の種が絶滅したということに重点が置かれていて、それぞれでいろいろなアプローチがあって構わないのですが、我々が授業をした時はもうちょっと62軒からの人々がそこに暮らしていた。ようするにクニマスが絶望したという話もあり、そこで一緒に暮らしていた生活も潰し、その内陸漁業の生業自体も潰し、それで成立していた文化も潰してしまいました。そういった人との繋がりや社会の繋がり部分を非常に結構大きく取り上げた授業だったのですが、今回の授業では子どもたちはクニマスって種が絶滅してしまったから復活させないといけないだという位しか伝わっていないのかもしれないのかもしれないですね。魚と人との結び付きとか、そこで生まれていた文化とかまで前の授業では踏み込見ながらやっていたことは一応覚えていて欲しいと思います。以上です。」

司会

「それでは(7分36秒頃)から意見、質問を発表して貰いたいと思います。誰かいらっしやいませんか。お願いします。」

質問者1

「何点かあるのですが、まず、全体的な話なんですけれども、中学校班の時よりもみんなの生徒に対するまずまずテンションが安定していて、非常に良い感じで生徒と関わっていた部分もあって、特に導入の部分で(8分16秒頃)非常に良い雰囲気だったのかなと思いました。クニマスってすでにばれていた所があって、ばれていなければあの写真でクニマスにもっていくのは、すごく面白いと思ったので、どういう子どもたちの論争が起きたのかなとちょっと気になったので、そこが惜しかったなと思いました。もう一つがクニマスのポスターで WANTED500万円ってありましたが、世界で唯一、田沢湖にしかないという希少価値とかがあって中学校班では米1.5キロの価値があったというのを逆に使っちゃって、当時のお金でいくらか、つまり今の時代で何万なのか、つまり今は絶滅してしまっただけで500万、それに対して更にどれくらい価値が上がったのか、希少価値があるのかという風に持っていけばクニマスの位置づけが持った分易くなったのではないかな。あと、クニマスの歩みのワークシートなのですが、これが縦字で、しかも左から行っているせいで、板書も縦書きの人、横書きの人でゴチャゴチャになってしまっ、ちょ

っと見にくい。この年表も横の形で作った方が良くはないか。あと、真ん中が新聞なのもそうなのですが、子どもたちに発表して貰って「どういふのを見つけた」って言って、大きいのは30センチというのがどこに書いているのか、その部分に書かれているのか分からない人もいると思うのでそういうのを再確認するのも重要なのかな。子どもたちの意見がというのがあるのですが、打ち合わせして、質問に対してこのくらいの長さでというように、時間は決まっているので、インタビューで動画を取ったものは編集出来るが、今回は生で時間配分は決まっているので、事前に打ち合わせをすることももう少し子どもから今まで勉強して出た疑問を出させるなど(11分11秒頃)以上です。」

司会

「他に何かありますか。」

質問者2

「発表お疲れ様です。全体的にすごく資料が充実していて、(11分32秒頃)な授業だと思いました。導入の天皇の写真や(11分37秒頃)すごく引きつけられた。釣り吉三平のバスなどは、実際に町で見かけるものであることやクニマスのポスターの実物など素晴らしいと思いました。ただ、資料が多く、やることが多くて生徒たちが混乱してしまった感じがします。ワークシート1だと(12分24秒頃)何を書けばよいのかという子が多く、(12分33秒)あと一つだけ、先ほども出ましたが、何故クニマスを学習するのかの切実性をいう部分があまりなかったように感じました。以上です。」

司会

「他に何かありませんか。」

質問者3

「授業お疲れ様でした。良い点からお話しさせていただきます。まず一、二時間目全体を通して黒板が見やすかったと言うことと授業の流れがすごく見えるような形であったので、そちらの点は良かったと思います。また、更に一時間目の板書した内容をホワイトボードに写して、いつでも二時間目に活用出来るように(0分31秒頃)あと、二時間目のグループ活動の時に机間指導をされていましたが、その時にちゃんと子どもの目線になって丁寧に机間指導をされていてすごく雰囲気良かったです。あとは、(0分57秒頃)イラストを入れてみたり、めあての(1分3秒頃)を変えてみたり、結構親しみやすいワークシートだったと思います。気になった点が一点あって、一時間目の年表の所なんですけれども、最初の前半部分は結構数年単位だったんですけど、姫観音の建立からポスターに行くまでに60年間間隔が開いていて、そこに何があったのか、その60年間の間に第二次世界大戦があって、(1分44秒)そういうこともあって、国策として導水があったと言うことがあったので、時間を

考えると難しい面もあると思うのですが、その説明も少しあった方が断絶されないで全体的に見ることができたのではないのでしょうか。あと、ポスターで500万円まであげてやるという検索をする意味があったというのは、それだけクニマスの(2分15秒頃)思うので、(2分20秒頃)それをもうちょっとうまく伝わったのではないかと思いました。以上です。」

司会

「他にありませんか。」

質問者4

「授業お疲れ様でした。私の方から良かった点としてそれぞれが自分のキャラクターの良さを出して授業をしていた事があると思います。また、皆さんが(2分55秒頃)子どもたちの間を回りながら話し合う時はこうした方が良いよと話していたことがよかったと思います。あと、少し気になった点として、一時間目の休み時間の時に子どもが「WANTED」って何と話していて、「WANTED」ってこういうことだよって知っている子どもが話していたんですけど、もしも時間があれば、子どもたちに「WANTED」ってなんだと思うと聞く時間があれば、また一つ(3分32秒頃)あったまのかなと思いました。以上です。」

司会

「他に何かありませんか。」

質問者5

「お疲れ様です。気になったところですがよろしいですか。授業が一時間目と二時間目でいきなりクニマスがどこで発見されたかという内容をやらずに、次の授業に進んでいきなり山梨で発見って書いたのですが、最初の配った資料に何々が山梨で発見っていう資料とクニマスが発見という資料の二つがあったのですが、その二つの繋がりをやらずにきゅうに山梨で発見というスタートだったのでそこが(4分30秒頃)あと、資料が一時間目多かったというのがあって、なるべく漫画は導入で、漫画に出ている WANTED 資料もクニマスについて結構詳しく書いているので、その資料一つをグループで読み取りをするだけでも結構面白かったのではないかな。もっと時間があれば読み取りの時間を作ってはどうか。二時間目の授業では、学習課題が三つくらいあって、これやるのに時間がどれくらいかかるのか。一番中心になるのは(5分24秒頃)秋田で愛され続けるクニマス(5分32秒頃)以上です。」

司会

「他にありませんか。」

質問者 6

「お疲れ様でした。急遽小学校班に入ることなど大変だったかもしれませんが、全員で授業ができて良かったと思います。漫画の中にクニマスの生態や歴史が書かれているので面白い資料を使いたい。クニマスの泳いでいる動画や現地の人たちの声を子どもたちに見せたり、聞かせたりすることで(6分39秒頃)教材を展開することもできていた。話を終えて、言いたいポイントを子どもたちに再度伝えるとすることをしていたので、良かったのではないか。ワークシート1の書かせたい思いが①ではクニマスの色や大きさという生態、その後はクニマスの歴史の流れを書かせたいという事だが、一枚に混在していると分かりにくいのでクニマスの生態をまとめるプリント一枚、歴史をまとめるプリントをまとめるプリント一枚と別々の方が良かったのではないか。カバ細工の授業した時も作り方双六と歴史双六を作って区別してやっていたので、その方が分かり易かったのではないのでしょうか。全体的に漫画、新聞、ワークシート、プレゼン、動画、ゲストティーチャーなどチャレンジ的な教材を展開していて、アグレッシブな内容で良かったと思います。これからもアグレッシブに面白い教材を開発して行って欲しいですし、自分も面白い教材を作っていきたいので参考になりました。ありがとうございます。以上です。」

司会

「他に意見はありませんか。」

質問者 7

「お疲れ様でした。5人とも堂々と授業をしていたと思います。特に大地君たちが上手で、(10分頃)驚きました。板書もゲストティーチャーが話している内容を黒板にまとめていて、実際に生徒はその時何をしようとしているかという、話をメモしようという欄に内容を書いていたと思うのですが、後ろの方で見ているとあまりにも綺麗にまとまっている板書を写す作業になっていて、あれはまとめた方が良かったのではないかと思います。ゲストティーチャーの方が話しているのに生徒の目がそこに向かっていない。黒板を見たり、ひたすら書くことで、ゲストと児童の接し方に距離があったように感じた。ボードを見ながら授業をしている人が何人かいた。研究授業なので緊張もするかもしれませんが、何も見なくても展開出来るくらい練習が必要だと思います。でも、すごく良かったと思います。以上です。」

司会

「他に何かありませんか。」

質問者 8

「お疲れ様でした。合計90分を6人でローテーションするのは難しいことだと思うのですけ

ど、(16 秒頃)スムーズに流れていてすごいと思いました。(29 秒頃)声のトーンを変えたりして、(43 秒頃)声を使う授業(55 秒頃)改めて結論に至りました。そして気になった点ですが、(1 分 6 秒)「見るからに酸性度高そうだ」(1 分 16 秒頃)この部分は、田沢湖を指しているのか、酸性度の強い玉川の源泉を指しているのか分からない。どっちなのかをハッキリさせておけば、考えやすかったのではないか。一陣目の最後に〇〇で発見とあったのですが、予想をさせて終わったのに、二時間目の最初に覚えているのかと聞いていて予想しているのを覚えているのかと聞いてしまうと、予想していれば良かったのか、自分で覚えていけばよいのかごっちゃになってしまっていたので、(2 分 22 秒頃)言葉遣いを(2 分 33 秒)思います。最後に、代わるたびに一人一人が田沢湖にしか居ないと言うことと西湖に入るけど戻ってきていないと言うことを全員が何度も強調していて、代わるたびに言っていて、そういった部分にもしかしたら時間を使ってしまったのではないか。伝えたいという気持ちは伝わるのですが、全員が言うのではなく、(3 分 10 秒頃)良かったのではないかと思います。以上です。」

司会

「他に誰かありませんか。」

質問者 9

「授業意見で、授業者が大切なことを伝えるのは難しいのに、見知らぬ大学生がそれをたった二時間で考えさせ、深めさせるのがどれだけ難しいことなのかと見ていて感じました。気になった点は、イメージを持たせるという所に工夫がかけていたのかと思いました。先ほど外池先生もおっしゃっていましたが、真ん中一頁のところでは量の抽象概念が出てきたところで 30 センチなどのところは具体的に示した方が良かったのではないかと、ゲストティーチャーの方が酸性のところでは具体例としてレモンを出したときに子どもたちの反応がとても良かった感じがしました。強酸性といわれても具体的にイメージが湧かないと思うので、実際私たち水道からレモン水が出てきたら生活ができないので、そういう具体的なイメージを持たせる。富国強兵など戦争についても全く勉強していない子どもたちが単語を見てもよく分からないと思うように感じたので、戦争に向かうと言われても全くよく分からない、そのまま進めてしまったので、(5 分頃)目立ったのかなと思いました。以上です。」

司会・質問者 10

「他に何かありませんか。では、自分から質問させていただきます。授業お疲れ様でした。小学校、中学校と同じ題材を扱ったのですが、指導案を見ると(5 分 23 秒頃)授業全体も、問題が面白くて、(5 分 40 秒頃)自分からは、かなり細かいことを言わせて頂きます。(5 分 48 秒頃)たまに声が小さくなってしまっているところがありました。(6 分 1 秒頃)写真資料を提示する時に(6 分 7 秒頃)一時間目のめあての提示の仕方なのですが、小学生には読ませた方

が(6分22秒頃)ワークシート1なのですが、指示は出しているにもかかわらず聞いていない子や忘れてしまう子が居るので、指示はこういう風なところに出ているよと(6分43分頃)地図帳、玉川(6分51秒頃)玉川が秋田だと(6分56秒頃)思いました。パワーポイントのところは、所々難しい言葉が出ていたので(7分11秒頃)あと、二つだけですが、活動をさせる時に活動を終えて児童に何を学ばせたのかというところが弱いのではないかと思いました。資料の読み取りの①、②、③のところも(7分43秒頃)とても良いことを話して居るのですが動きながら話していたので、(8分22秒頃)自分からは以上です。」

司会

「他にいますか。」

質問者 11

「お疲れ様でした。当事者の(8分58秒頃)いろいろ打ち合わせとか大変だったと思うのですが、本当にお疲れ様でした。ゲストティーチャーの方に離して貰うタイミングがどうだったかと思いました。言っている内容はどちらかという思い(9分27秒頃)実際の取り組みについて話していれば、(9分32秒頃)どうすればクニマスを田沢湖に復活させるか(9分39秒頃)その後に実際の取り組みについて時間(9分50秒頃)取り組みを中心に代わってくる。ゲストティーチャー(10分頃)もっとよかったのかなと思いました。3年生の皆さん、本当に子どもたちの(10分15秒頃)伝わってきたので、一生懸命(10分21秒頃)お疲れ様でした。」

司会

「(1秒頃)お願いします。」

附属小学校教員

「今日はお疲れ様でした。どうもありがとうございました。いろいろな意見が出てきましたので、繰り返しになる部分もあると思いますが、私が参観させて頂いて感じたことをお話ししたいと思います。教材の準備が大変頑張っていたのだと伝わるものが沢山ありました。年表にするように短冊を準備していたり、映像、新聞資料、写真、ポスター、パワーポイントそしてゲストティーチャーというように沢山の情報を集めて、できるだけ子どもたちに分かって貰おうという意欲がすごく感じられたと思います。情報が沢山あると言うことで、いろいろと情報を子どもに提示したのですが、情報量が多かったと言うことがあって子どもの中に焦点化したものを簡潔に伝える、伝えたいことが沢山あることは良いことだと思うのですが、それを全て大人目線で分かって欲しいことを子どもが全て理解することは難しいことなので、子どもたちにはどの資料をどの順番でどれだけ与えるかをそぎ落として行くことを考えれば、より伝えやすくなったのではないかと思います。準備はしていても必要に応じて出す資料があっても良いので、あれもこれもと言うように伝えたい

ことがあるから準備するんですけども、こういう時に出す資料、今回はそういう意見が出なかったら使わなかったという引き出しとしての資料を準備しておけばよいと思います。あれもこれもと与えたいくなるタイプなのですが、それを我慢して今必要なのはこの資料、子どもからこういう疑問が出てきたからこの資料を出そうというように引き出しを自分で持っていればよりよいのではないかと思います。先ほど、意見の中で出てきましたが私もゲストティーチャーが来るというのは何度かやったことがあるのですが、結構ゲストティーチャーの方は思いが非常に強いので、そして普段小学生にしゃべり慣れていないと言うことがあるので、打ち合わせがとても大事になります。ゲストティーチャーにしゃべって貰いたいことはこういう事なんだ、何分くらいしゃべって頂きたいのかと言うことを割と綿密に打ち合わせをしておく、子どもにとって一番有益な情報がすっと子どもに入っていくと言うことになります。ゲストティーチャーの方は思いが強いので、いろんな事をお話ししたいという気持ちでいらっしゃるんですけど、ともするとお話の中身に難しい単語が入ってきたり、本当に伝えたい内容はこれなんだけれどもそれを伝えるに当たってもっと大きいことまで話してしまっただけで子どもの方では何が重要なのか掴みにくいまま話が進んでしまったりと言うことがあるので、ゲストティーチャーの方が来て話してくれることは、本当に実際のリアルの声なので子どもにとってすごく有効ではあるのですが、それをどれだけ有益さを引き出せるかが授業を組み立てる上での大きなポイントになるので、事前の打ち合わせというものをより大事にしてもらえればいいのかなと思います。先ほど話が出ていましたが、クニマスが秋田で愛され続けていくことで子どもたちができることは何かという最後の大きな課題に入った時間が3時5分頃だったということで、グループで活動することが非常に見所であり、子どもたちもこれまでの学習を受けてこれから先、自分たちはどんなことができるのだろうかと言うことを考えていく上ではあそこに時間ももっと取れるように組み立てをするとよりよかったのかなと思いましたが、準備段階での充実ぶりが非常に大きかったので、どうしても時間が足りなくなってしまうと言うことは授業ではよくあるので、どの流れでこれは必要なのか最終的なゴール地点が子どもにしっかり見えるようにするには導入の時点で何を出すべきかというめあてを最終的に達成するために必要な学習活動というものを積み重ねて、ゴールのところはこれだからこの前はこれをやろう、これに行き着くためにはこの展開が必要、だからこの資料を準備しよう、この資料を準備するに当たって、子どもに関心を持たせるためにはこんな分類が必要だと言うように逆から考えていくというのを教材研究の中に取り入れていくとより深まりがある授業ができるようになるのではないかと思います。私も全くそんな偉そうなことを言って実践出来ないでいるのですが、見させて頂いた正直な感想だと思うので受け止めてもらえるとありがたいです。でも、非常にチームワークも良く、準備も頑張っていて、子どもたちも最終的に帰りの会で話を聞いたら、「クニマスってよく分からなかったけど、秋田県にとって大事なんだなということが分かった」ということを言っていたので、希少価値が高いんだ、ここにしかいなかった、それが絶滅したと思ったら、また新たに出てき

たという喜びをこれから感じさせていけるようにしたいと思います。最後に、授業をされる先生と電話で打ち合わせしたのですが、その時、私、クニマスって事に関して子どもたちにちょっと前知識というか、どういう風な勉強をするんだよと言ってあげばいいでしょうかとお尋ねしたんですね。その時に、何も分からない状態で勉強することを想定しているのでは、話をいただいたんですけども、先生たちのお話を聞くと、どうしても何故、今クニマスの勉強をするのかという課題の切実感が薄かったのではないかという話が出ていたので、私の方でも少しクニマスに関しての関心を高めるお手伝いをしてあげられれば良かったなと思っております。あと、最初に「クニマス」という言葉が出てしまったのですが、それは附属中学校での実践をニュースで見たという子が居まして、そのことを話題にしている子どもがいて、全員の前で言っていた訳ではなくて、やっぱり中学校でやったのとは違った内容とは違っていたんじゃないかなという話をされていて、そういう映像を見たという子がいたので「クニマス」というのが出てしまったのですが、それがなければ多分クニマスというのは目に触れることは無かったと思うので、今回はすごく他の子どもにとってもすごく良い経験になったのではないかと思います。お忙しいところいろいろ準備して頂いてどうもありがとうございました。」

司会

「最後に井門先生からお願いします。」

井門先生

「指導案の方はこれからもっと考察とかしておかないと。授業の目標の4観点(12秒頃)導入の所から行きますけど、泉くんは(22秒頃)ストレートに4枚の写真から行かないと。泉くんはちょっと特定の子どもに(31秒頃)何でそんなことをしているのかな。あそこでバンと天皇陛下の写真とかを出して、何で天皇陛下が出てくるのかなとか言えば、例えクニマスだと思っても、そんなのは出てくるはずないよね、クニマスと天皇陛下が直接つながらない。そこで四枚の写真の使い方をストレートにしないといけない。一部の子どもに聞かなくていいんです。つまらないコトしたなと思っております。そういうことすると、クリティカル、もう分かっているみたいになると展開がスムーズに行かなくなる。それから、田沢湖に行ったことがある、田沢湖の話題があるなら聞く必要があるけれども、導入の所では、天皇陛下の写真、姫観音、さかなくん、クニマスの順番で出てくる、クニマスの新聞の白抜きはやばかったね。これを出してしまうと「山梨」が出ちゃうので、発見されたという話が出てしまうので、さかなくんまでか本当に黒い写真、新聞記事じゃなくて、新聞記事を見せるとまた後で使うので必要ないです。そういうものを4枚なら4枚準備して置いてそこから連想させる楽しさ。分からないもの普通知らなければ。出した四つから連想させながら、じゃあ、釣り吉三平のバスを出してきて、釣り吉三平ってバス乗ったことあるよって出てくるから、実は釣り吉三平の物語が関係しているんですよって話でね、

そしてクニマスの世界の出し方を考えなければならない。クニマスが曖昧な形でダラダラという感じで出てきてしまった感じがある。そこは、セールスの問題でクニマスの発見や絶滅などの貴重なキーワードがみんなさりげなく出しちゃって、どんどん、玉川導水とか。みんな、だらだらキーワードになる重要な事件でしょって言うところを意外と軽く出している。なんでそんなことするのかなんて思った。それはセンスの問題で、中学校班はかける時間なかったけど、一時間目はちょっとやり方がどうかなと思うけど、でもセンスは光るよ。使い方が。ここはみんながどう出していくのか、それをみんなに求めるのは今の段階では厳しいのかもしれないけど、センスはそんなに(3分34秒)そこは、みんなは複数、6人いるんだから、もっと打ち合わせして、みんなはおそらく絶滅した時のその地域の人が抱えた問題、職業がかかっている、中学校で出てきた東北の大飢饉がある。大飢饉や戦争のことを考えれば、当然食糧増産、電源開発っていうので田沢湖の住民のことよりももっと田沢湖の水を使って発電して仙北平野を豊かにした方が、価値があるという選択。そこで犠牲になった人々の気持ちについてみんながどう風にくみ取っているのか。共感の力だよ。そこがちょっと弱いかな。この辺の所か釣り吉三平の漫画に持って行けば、その背景に重いものを持ちながらも軽やかに、四枚の写真を使いながらいろいろな意見を聞きながら授業を、展開をしていく。やっていくうちにこんなことがあったの、職業までも奪われてしまったの、東北で大飢饉があつてのために食糧増産しないといけなかったのかと自分たちならどっちを選択するだろうかとそのくらいのことを子どもたちに考えさせた方が良かったと思う。それくらいのことをしないと歴史教育や環境教育の意味がない。今だって、大津波があつてさ、原発事故の余波もあるでしょ、みんな忘れた感じでさ、魚だって三陸地方で取れました、わかめもおいしいですよ、冗談じゃないよ。そういった本当のところを突き詰める社会科の追究力がなかったら、東北の旅みたいなのが本当に良いんですかって言う問題なんだよ。今に繋がるんだよ。だからそういうところを感じ取って深く追求して行って欲しいっていうのが今日の小学校班に対する意見。そういうところから釣り吉三平に入るよね、僕も実は小学校の教員の時に漫画使って大失敗したことがあって、日中戦争だったかな、漫画って子どもたちの学習離れから読めるだろうって思ったら、授業が半分しか進まなかったことがある。指導主事も言い訳はしたもののこれはまずかったと思いました。漫画ってこれくらいなら適切な取り出し方かなと思います。僕の失敗は踏襲していなかったと思います。これくらいなら良いんですけど、これをここに書かせる必要があるのか。これは一旦読んだことを書きましようと言うのはしーんとしたみたい。書かせるというのは。僕がギャラリーフェイクの授業で、以前は書かせていたんだけど、しーんとしちゃったね。それを読み取るのなら5年生、6年生には簡単だから出てくるよね、読み取ったことをみんな言ってみてよ、何でも良いからとみんなが読んで受け止めたことを、構造的に生息、体長、生息の仕方、田沢湖のこととか、そうするともっと活発に出てきたよね。副校長先生が見ていて、「もっと子どもを使って欲しかった」という風に言っていたので、この前半の所は中学校の問題にも繋がるけど、どうしても手堅く抑えようとする

ると読んだものを書かせようとするとう授業の時間がものすごくかかるし、ようするにしーんとしてしまう。そこはもうちょっと変えた方が良いね。この辺のやり方は工夫が筆よだったと思います。田沢湖に関する情報が少なすぎる。言ったことをどこかで確認しないといけない。童子姫像を見たことがあるとかそういったところを田沢湖の話が出てきたところでどんどん出させて、田沢湖ってこうなんだよって、行ったことがない子もいるかもしれない。田沢湖の風景くらいは動画や写真で見せて、田沢湖の深さはこんなにあってということというんだよ。田沢湖には流れ出る大きな川はなくて沢なようなもので雨が降ったら(8分38秒頃)状態なんだよって話をすれば、田沢湖の水を使って水をどんどん流したらなくなってしまう、そのために玉川導水を作ろう、その時に毒水でもいいや、中和作用はしているんでしょ、そういうことの原因を分かるようにしてやらないといけないね。生徒の意見の中には、田沢湖の水をそっくり替えればいいやという意見が出たけど、そっくり替えるっていつてもどれくらいの容積なのかもみんなが抑えておけば、そっくり替えると言っても東京ドーム何個分だとかそういう話をすればもっと実感が湧くよね。そういったところをもっと考えて欲しいところですね。それから二時間目は、(9分30秒頃)切実性をそこで持たせて、田沢湖周辺の猟師たちとどちらを取るのか、国策がこうだから。そういうところをやった方が良くと思う。「どくみず」というけれど、僕は「どくすい」だと思う。漫画では「どくみず」って書いてあるけど。姫観音の話も中学校でやっていたけど、滅び行く魚たちと童子姫を供養する、工事でなくなった日本人や朝鮮人、そういう人たちを供養するっていうのであって、滅び行くというので完全に絶滅したということにしても良いのか。確認してください。先ほどあったように歴史的にどうかという部分があったので、そこも確認してください。最後の未来について考えようのところで、(11分頃)特に最後の思いみたいなところが、出ちゃうと、社会科も全部そうだけど、先に思いに走ってはダメ。小学校では、思い、努力、工夫、工夫は良いけど、努力や思いなど情緒に走ってしまうと、思いの方に行ってしまうが、東北大恐慌とかいرونな事を踏まえれば思いって自然に浮いてくる。昔、附属でやったハタハタの授業だって、事実を抑えて、最初から思いなんかやらない。最後に佐藤さんが県の理事長で解禁の日に不漁だったらどうしようって、枕元に縄を置いて首を吊って死ぬって覚悟でいた。その事実だけでどんな思いか分かるでしょ。それが良い事って訳じゃないけど、死ななくて良かったけどさ。そういうところから分かるから、必ず思いじゃなくて事実、そこから思いが予想出来るようなものを構成していつて欲しい。ゲストティーチャーの方を招いたことは良かったと思います。みんなの授業を変えてくれたともいます。若干事前に準備はしていましたが、そういうのはなかなか難しいので、こういう風に言っではどうですか。「田口さん、一つ3分くらいですよ。それ以上お話になった場合は、私の方で合図いたしますので、ちょっと取りやめてください。失礼とは思いますが」と言っておけばさ、区切ることができる。だけど、その約束事をしていないと長くどんどん行ってしまうと、そのまま止めようがないじゃない。年上の人だから。ゲストだし。だからそういうところを工夫する必要がある。クニマスの最後の所は、

どうしても子どもたちの提案が不十分であった。もう少し出るように工夫した方が良かったと思いますね。特に僕も NHK のビデオは撮ってあったけど、(13分 27 秒頃)そうになるとあの見せ方はないだろう。みんなが教えるより動画の中で表されている(13分 39 秒頃)いじめ問題プロジェクトの DVD の編集やっているけど、全体の構成考えて、何を捨てて何を残すか。表現のプロがやったのは固まっている。そこだけ泳いでいるシーンが出てきて(14分 5 秒頃)最初のさかなくんのところ、あと我々が実際に見た(14分 14 秒頃)取材に行くと水槽にいる稚魚見たでしょ。何であの動画とか写真を使わないんですか。そういうのはセンスの問題。自分たちは行ってきて、僕たちは見たんだよって何で言わないんだよ。そういうのはちょっとまずいよね。見てきたんだもの。見てきたってことも言わないでしょ。そういうような所をもっと加えて、リベンジで(14分 42 秒頃)最後、やっぱりみんなが教材を研究するという事は、小学校、中学校、高校(15分 2 秒頃)酸性度を上げるって書いちゃっている。下げる何だよ。数値が低いと酸性で、理科的なところだけど、そこもしっかり抑えておく。厳しいことも言いましたが、よく教材も資料とかも精選してきているけれども使い方で記述が多くて、小学生ならもっとわいわいやれるところを、活発なところが見られなかったために、もっと使って欲しかったと言っていたと思うのでその辺を頑張ればもっと良い、活性化するような授業になったのではないかと思います。授業の仕方はそれぞれの個性が出ていてよかったので、大きなこしをしっかりとどこが重要なものなのか抑えて、そこはバーンと出したら衝撃を受けるよなっていうようなつかみの取り方を研究して欲しい。我々は 13 年ぐらい前にクニマスを探せと言う授業をやった訳ね。それだけの思い、歴史のある、うちの研究室にとっても重要な実践史のあるものなので(17分 12 秒頃)以上です。」

第5学年C組社会科学学習指導案

授業者 泉大地

大森果歩

佐々木弘平

鈴木雅翔

譲矢有紀

1. 教材観

本授業実践にあたり私たちは「クニマス」を教材として扱うことになった。クニマスとは以前は田沢湖にのみ生息していた魚であるが、すでに絶滅してしまったと考えられていた。戦時中に水力発電所に供給する湖水を補うために、玉川の強酸性の水を引き込んだことにより、田沢湖にクニマスが生息できなくなってしまっていた。しかし2010年12月にクニマスが西湖で見つかったというニュースが発表された。西湖にクニマスの卵を送ったというはぎなどが残されており、西湖でそのクニマスが現在まで残っていたとみられる。田沢湖から消えたクニマスに戻すために、三浦久兵衛さんが中心となって様々な活動を行っていた。今は息子の三浦久さんがそれを受け継ぎ、田沢湖にクニマスが里帰りできるように様々な活動を行っている。

私たちは三浦さんに取材に行き、クニマスを田沢湖に里帰りさせるために三浦久兵衛さんや久さんが行ってきた活動について調査を行った。そこでクニマスを里帰りさせるためにはたくさんの人々の思いが込められていることが分かった。

そこで私たちはクニマスをテーマにした授業を行う。学習指導要領の5年生の目標「我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。」を踏まえて授業を作成した。学習指導要領の内容については(4)「我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。」に該当する

さらにクニマスを田沢湖に里帰りさせようと活動している人々の思いに触れることを通じて今まで知らなかった秋田を知り、未来の環境の大切さや、郷土を大切にすることについて考えてもらいたい。またクニマスに関連して、電力開発のために死んでしまった魚たちの慰霊のために建立した姫観音についても触れることで、より深く田沢湖を大切にする人の気持ちに気づいてもらいたい。

2. 指導観

この授業は小学校の第五学年を対象に行う。私たちはクニマスが発見された今、どのように田沢湖にクニマスを田沢湖に復活させるか、そしてクニマスが田沢湖に戻り、クニマスが愛され、生き続けていくためにどのようなことができるかを考えさせることにより、クニマスの現在、そして未来に注目し、今まで知らなかった秋田のことを知り、未来の環

境を守る大切さを考えさせる。

クニマスや田沢湖の歴史については矢口高雄の描いた漫画「釣りキチ三平」にクニマスをテーマにした内容があるのでそれを活用し、体系的に歴史を理解させたい。その際には田沢湖でのクニマス生存時の写真や田沢湖発電所の写真、クニマスを探しているときに使用したポスターなどを提示して、児童の興味を引き付けていく。また教材観でも述べたように、姫観音像についても触れ、姫観音像の謂れなどを知り、当時の人の思いについて触れさせる。

2時間目にクニマスの現在と未来について考えさせる。現在はクニマスが発見されたが未だに田沢湖に復活することができていない状況であることを、クニマス発見の記事を使って気づかせる。そこでどうしたらクニマスを田沢湖に戻すことができるかを考えさせていく。そのとき山梨県西湖でクニマスが泳いでいる動画とクニマスの稚魚の写真を見せて児童の意欲を引き立てたい。さらにゲストティーチャーとして田沢湖に生命を育む会の会長の田口達生さんを招いて話を聞き、実際の取り組みについて実感を持って理解できるようにしたい。クニマスの未来について考えさせる際には、環境の大切さとクニマスが多くの人に知ってもらいクニマスが愛されていくための工夫についても注目させたい。

これらのクニマスをテーマとした授業を通して、クニマスを戻そうとする人々の思いに触れ、環境の大切さや郷土のあたらしい良さに気付いてもらいたい。そして未来のために自分にできること、みんなができることについて考えて欲しい。


3. 展開

第1時：つりきち三平ワールドにタイムスリップ！

(1) ねらい

クニマスが発見されるまでの歴史的背景について、マンガ「つりきち三平」を一部活用することを通して、体系的に理解することができる。(知識・理解)

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援	資料・評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の写真・資料から、本時の学習テーマについて推論する。 さかなくんの動画から、クニマスが発見されたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが授業に興味を持つことができるように、関係のある写真資料を提示する。 ①さかなくん ②姫観音像 ③天皇陛下 ④クニマス(白抜き) 発見の新聞記事 発見された魚がクニマスであることを知ることができるように、さかなくんの動画を流す。 	<ul style="list-style-type: none"> さかなくんの写真 姫観音像の写真 天皇陛下の写真 クニマス(白抜き) 発見の新聞記事 さかなくん動画(約1分半)
クニマス博士になろう！			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 秋田市のつりきち三平バスがクニマスと関係していることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの関心を引き付けるために、秋田市のつりきち三平バス写真を提示し、つりきち三平のマンガや作者を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「つりきち三平」バスの写真 「つりきち三平」のマンガ ワークシート1
つりきち三平ワールドにタイムスリップ！ クニマスの秘密を探ろう！			
	<ul style="list-style-type: none"> クニマスを題材にした「つりきち三平」のマンガを一部抜粋した 	<ul style="list-style-type: none"> 全員にマンガ小冊子(一部抜粋)とワークシートを配布し、 	<ul style="list-style-type: none"> 使用するマンガの場面

<p>まとめ 5分</p>	<p>小冊子から、視点に沿って読み取りを行い、個人でワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガから読み取ったことを田沢湖の歴史年表と照らし合わせながら、クラス全体で発表し、確認する。 ・年表と写真から姫観音像の存在に気づき、姫観音像の謂われについて知る。 	<p>視点の確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行う。 ・クニマスの歴史を体系的に理解することができるように、年表とマンガ、実際の写真やポスターを組み合わせた板書をずる。 ・年表と姫観音像の写真に注目させ、田沢湖の地図を提示し、姫観音像についてパワーポイントで説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①秋田県固有の魚として昔はたくさん存在していた場面 ②田沢湖汚染によって消滅してしまった場面 ③WANTED の場面 <ul style="list-style-type: none"> ・田沢湖の歴史年表(拡大版) ・マンガ①②③場面の拡大図 ・田沢湖でのクニマス生存時の写真 ・田沢湖発電所の写真 ・WANTED ポスター ・姫観音像パワーポイント ・田沢湖の地図 <p>【評価】 マンガからクニマスの歴史を読み取り、正しく理解している。(ワークシート)</p>
-------------------	--	--	--

第2時：

(1) ねらい

クニマスを田沢湖に復活させようと活動している現在の人々の思いに触れ、未来の環境が大切なことに気づき、さらにクニマスを多くの人に知ってもらうための工夫について考える。(思考・判断・表現)

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援	資料・評価
導入 15分	クニマスの現在と未来について考えよう！		
	<ul style="list-style-type: none"> クニマスが発見された場所について考える。 前時の新聞記事から、クニマスが発見された場所に気づく。 山梨県西湖のクニマスの動画や稚魚の写真から、クニマスが秋田で生存していないことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> マンガの結末と現実の話を紹介し、現実で発見された場所はどこか問いかける。 クニマスが山梨で発見されたことに気づくことができるように、前時の新聞記事を提示する。 山梨県西湖の動画や田沢湖展示会での稚魚の写真を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の新聞記事 山梨県西湖の動画（NHKサイエンスゼロ） 稚魚の写真（田沢湖展示会のもの）
展開 27分	どうしたらクニマスを田沢湖に復活させることができるだろう？		
	<ul style="list-style-type: none"> 田沢湖にクニマスを復活させる方法を考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の取り組みについて実感を持って理解することができるように、ゲストティーチャーにインタビュー形式で話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2 ゲストティーチャー（田口さん）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー田口さんとのインタビューの話を聞き、メモをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クニマス復活の活動や取り組みを板書する。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クニマスが秋田で愛され生き続けていくために、今後どんなことができるだろう？</p> </div>		
<p>ま と め 3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問について個人で考え、ワークシートに記入する。 ・発問についてグループで意見を共有する。 ・クラス全体で発表する。 ・本時の振り返りをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クニマスの今後について考えることを通して、環境が大切なことに気づかせる。 ・「つりきち三平」の作者矢口さんのクニマスへの思いを紹介する。 	<p>【評価】 クニマスを田沢湖に復活させようとする人々の思いに触れることで、クニマスを多くの人に知ってもらうための工夫について考え、表現することができる。(ワークシート)</p>